



激動を生き抜き、次の100年へ
～酪農で日本の食と地域を支える～

ITO DAIRY





鶴居村



鶴居村



the most beautiful
villages in japan

「日本で最も美しい村」連合

<http://www.utsukushii-mura.jp/>



会社紹介 株式会社 伊藤デイリー

経営規模（借入地含む）

採草地	360ha
飼料用トウモロコシ	85ha
施設面積	5ha
計	450ha

飼養頭数

成牛	650頭
育成牛	450頭
計	1,100頭

構成員

役員 3 名 正社員 16 名 パート 2 名 実習生 8 人







株式会社 伊藤デューリー



①フリーストール牛舎

牛をつなぐずに、自由に歩き回れるスペースがある牛舎。パイプが設置され一頭ずつに仕切られていますが、自由に出入り、休息ができます。

②フリーバーン牛舎

牛をつなぐずに、自由に歩き回れるスペースがある牛舎。フリーストール牛舎との違いは、一頭ずつに休息できるストールは無い点です。放し飼いとなるため、好きな場所で休息できます。

③搾乳舎

子牛を産んで、乳が出る状態の搾乳牛がいる牛舎。18頭パラレルタイプのパーラーで、朝、昼、夜の1日3回の搾乳をしています。



④乾乳舎

妊娠中で搾乳を休んでいる乳牛が入る牛舎

⑤育成舎

生後6カ月以上で、初めての出産を迎える前の雌牛が入る牛舎



⑥バンカーサイロ

刈り取った牧草を積みます。牧草をビニールシートで覆い、発酵させて飼料をつくります。



⑦バイオガスプラント

牛の糞尿を発酵させ、取り出したバイオガスで発電します。環境負荷軽減にもつながります。

伊藤デリーの歴史

1919年 新潟から入植

1972年 伊藤順一（会長）就農。乳牛40頭

1999年 伊藤和宏就農。乳牛100頭

2007年 近隣の農家の離農により、土地が手に入ることになる。

2008年 法人化し5億円を投じて規模拡大。正社員の雇用を開始。

2012年 経営不振で搾乳回数を1日2回から3回に変更。

2015年 人手不足でフィリピンの技能実習生を受け入れ【変革①】





人手不足から外国人技能実習生

2018年（平成30年） 2棟目の社宅建設。外国人実習生4名に。
経産牛：540頭



日本人と実習生に差は無い





少しでも働きやすい環境を追求



2019年（平成31年）バイオガスプラント稼働開始（150kwh）
【変革②】

2020年4月（令和2年）新型コロナウイルスによる緊急事態宣言

2021年（令和3年）哺育舎2棟、育成舎1棟 稼働

2021年（令和3年）伊藤和宏が代表取締役役に就任

2021年（令和3年）経営コンサルタント契約

2024年（令和6年）バイオガスプラント増設（300kwh）







牛の糞尿から電気を作る



糞尿を発酵



メタンガスを取り出す



メタンガスを燃料としてエンジンを稼働



電気を電力会社に販売（F I Tにより
39円/KWh）

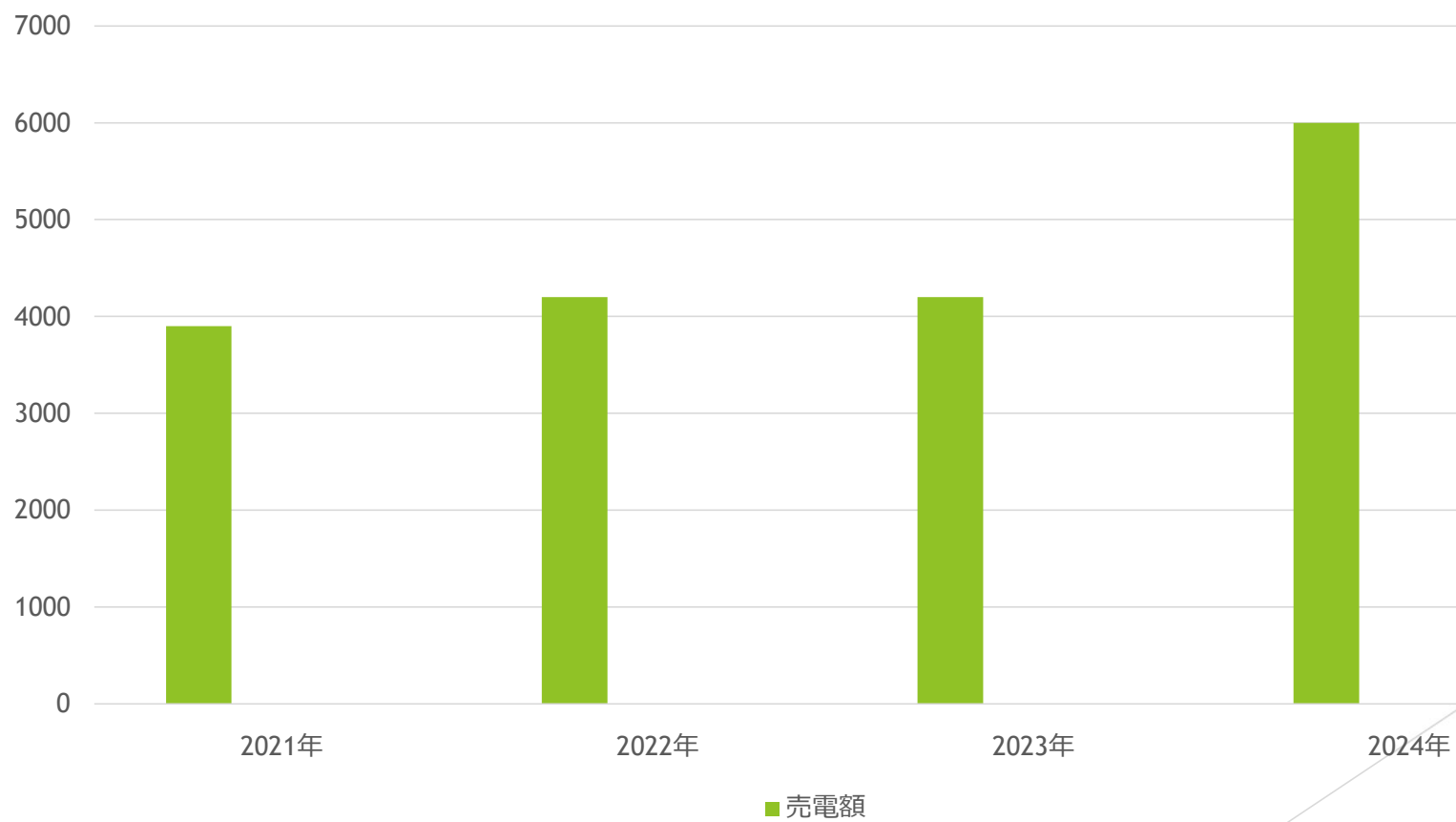


収益(約4000万/年)



収益額

発電による売り上げ



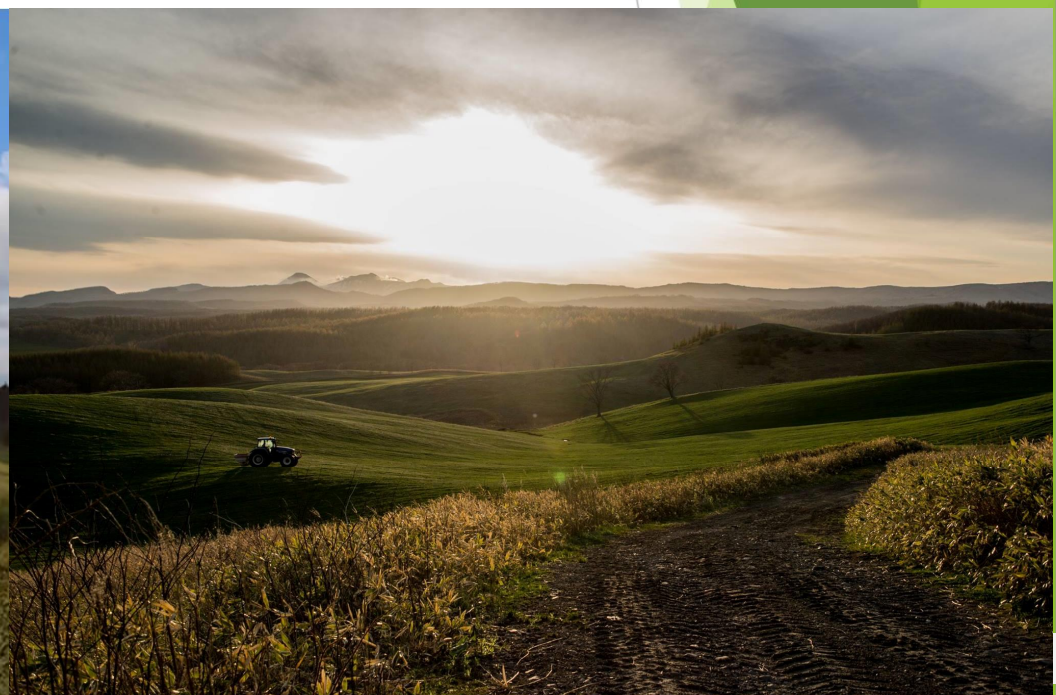


発電後の糞尿を搾って再利用
固液分離機を使用し、固形分を敷料に



消化液（液肥）を圃場に還元

肥料費削減



糞尿のにおいが非常に弱くなる

年中散布するので、理解を得やすい

糞尿は厄介者ではなく貴重な資源



2021年（令和3年）

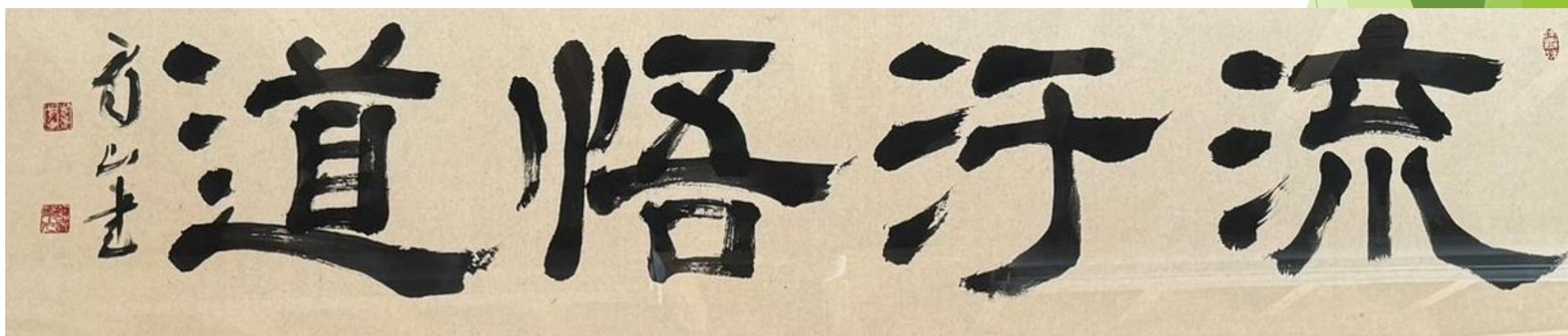
経営コンサルタント契約

【変革③】

2021年（令和3年）

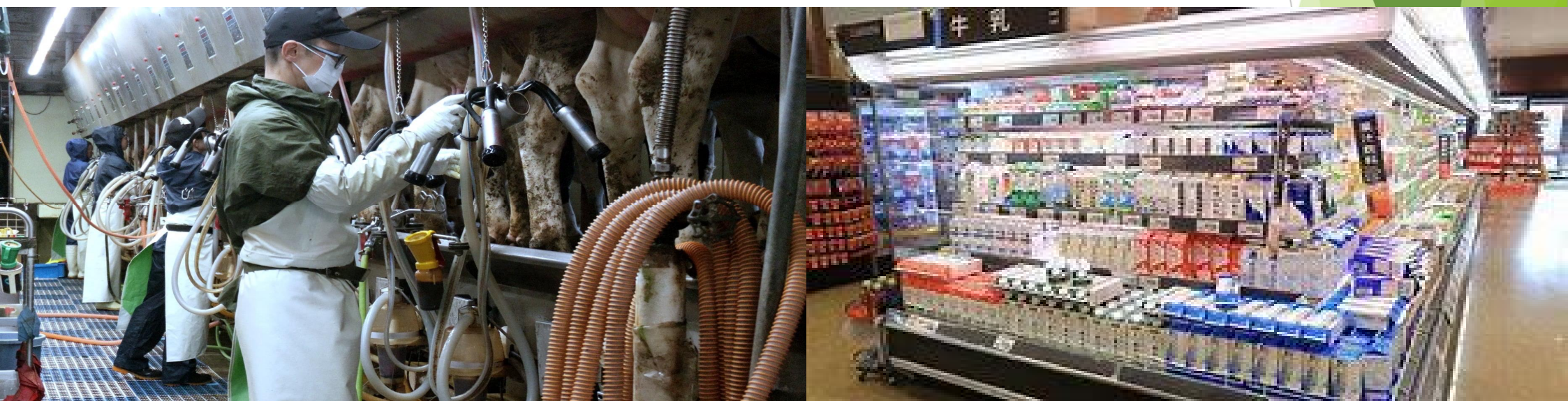
伊藤和宏が代表取締役役に就任【変革③】

父が70歳になった時に専務から社長に昇格
会長の経営理念



伊藤デイルーの名前への思い

デイルー(DAILY)とデーリイ (DAIRY) へのこだわり



2024年 経営理念・経営方針 ・ビジョンを作成 【変革④】 経営指針の勉強会で甘さを痛感



経営理念の変更

今回は自分が1人で作成





【経営理念】

豊かな自然が育んだ
安心安全な牛乳を提供
することで、
農場に関するすべての人
の満足を目指します

経営方針①

バイオガス発電を有効活用し、
肥料の削減や発生する熱を利用することでコストの削減を行なう



経営方針②

酪農の基本である牛乳
の生産を第一として、
相場や国際情勢に左右
されない安定した経営
を実践する



経営方針③

▶ 社員の満足のため、
やりがいと技術レベルの向上を目指し、
農場内外で活躍出来る人材を育てる



2024年7月 生産管理の
認証である

JGAPの認証を取得

食品安全、環境保全、労働安全、
人権保護、農場経営管理



jGAP





必要不可欠な食に
携わる産業



自分が行なったことが結果として見える



五感で牛を飼う



10年ビジョン

～次の100年に向けて～

次なる【変革】と【挑戦】



北海道は日本の食糧基地

温暖化が進む日本

自然に囲まれた素晴らしい地域



～酪農で日本の食と地域を支える～

10年ビジョン

【変革】と【挑戦】

社員が**主体的**に動き、どのように行動すればより良くなるかを考えられるようになっている。社員の**満足度**も高くなり、求人で困ることはなくなっている。



- 福利厚生の充実
(休日を年間100日達成)
- 社員の育成、活躍のサポート
- 同友会の求人、社員共育活用etc